

らぬこととなり、無條件には承認し難いことと思はれる。

三 兩殘卷の識語及び題名

兩殘卷には前に抄出したやうに、卷末に各々重要な識語があつて、經は開元五年十月廿六日法徒索元定によつて沙州の大秦寺で、讚は開元八年五月二日沙州大秦寺の法徒張駒（駒？）によつて傳寫せられたことを明記し、且つ共に題名の上に「大秦景教」といふ名稱を冠してある。開元五年（717）及び八年（720）に早くも大秦寺が沙州に在つたこと、また大秦景教といふ名稱が既に當時行はれて居つたことを知るのは、まさに唐代景教史上に於ける驚異といはねばならぬ。更めて言ふまでもなく、景教は當初波斯僧阿羅本によつて傳へられ、その寺は波斯寺と稱せられ、その教は波斯經教と呼ばれたのであつたが、これが大秦寺と改稱せられることになつたのは、天寶四載からのことである。その證據は、唐會要所載の玄宗皇帝の詔に、「天寶四載九月詔曰、波斯經教出_レ自_二大秦_一、傳習_{シテ}而來、久行_ニ中國_一、爰_ニ初建_レ寺_ヲ、因_{リテ}以爲_レ名_ト、將_ニ欲_レ示_レ人_ニ、必修_ニ其本_一、其_レ兩京_、波斯寺_、宜_ニ改爲_ニ大秦寺_ト、天下諸府郡置者_、亦_ニ準_レ此_一と見え、全唐文にもこのまゝに載せてあるので明らかであるとせられてゐる。これに據れば天寶四載（745）までは、大秦寺といふ名は兩京にも諸地方にも無い筈であり、勿論沙州にかゝる名をもつたこの教の寺院があつたとは考へられぬのみならず、この地にその前名の波斯寺のあつたことも從來知られた文獻には見えぬことである。また大秦景教という名も、何時から行はれることになつたか判然しないが、建中二年（781）に建てられた景教碑以前の文獻には見えない稱呼であり、以後の一般官私の記録にも、たゞ「大秦」とこそ稱するが、景教と記するものゝな